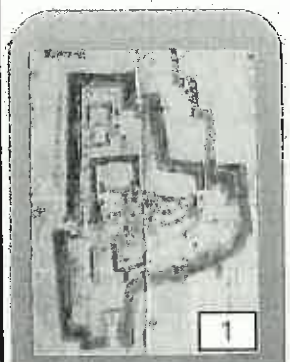
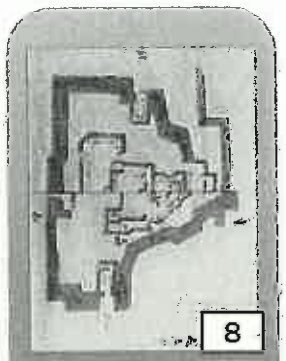
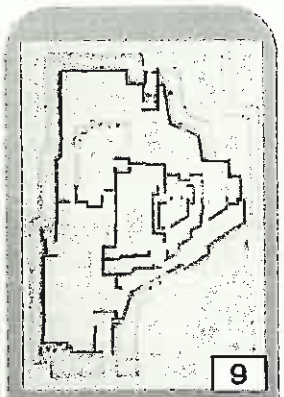
第3回甲府城跡総合調査検討委員会資料2

年代	事項	総合調査事業の成果
1590 (天正18)	豊臣秀勝支配 加藤家(天正19) 浅野家(文禄2)	
1600 (慶長5)	江戸幕府　開幕 浅野家紀州へ移封 浅野幸長が紀伊守 徳川家康支配 城代:平岩親吉	 1 「甲州府中之城図」 弘前市立図書館  8 『土図合絵記』 佐友史料館
1615 (元和)	大坂夏の陣	
1624 (寛永)		
1644 (正保)		 3 「甲府町図」 本居宣長記念  9 「古城郭図」 秋田県公文書館
1648 (慶安)		
(略)		
1664 (寛文4) 以降	甲府城大改修	 11 「(仮)甲府城絵図」個人蔵

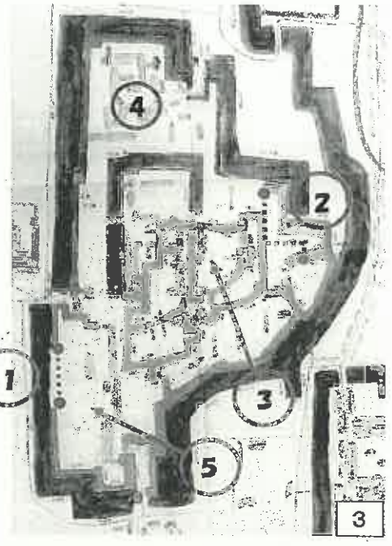
築城期

江戸初期

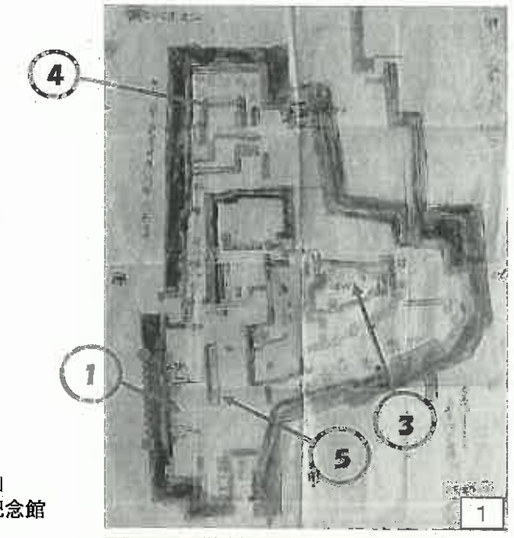
(江戸前期)

江戸中期

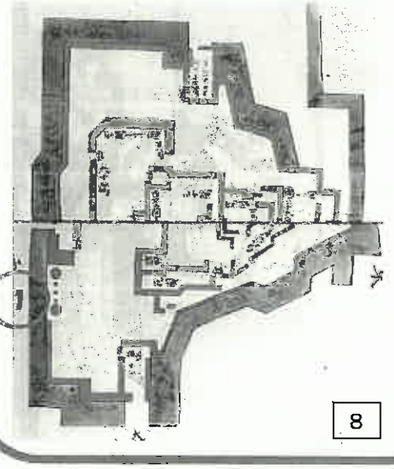
江戸時代初期



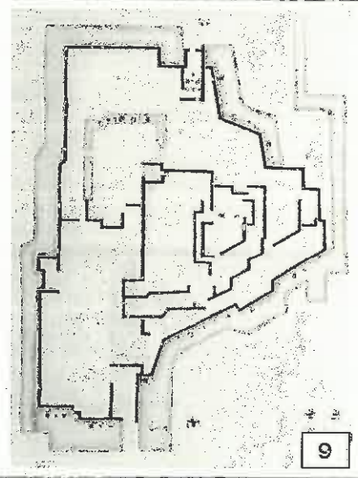
3 「甲府町図」
本居宣長記念館



1 「甲州府中之城図」
弘前市立図書館

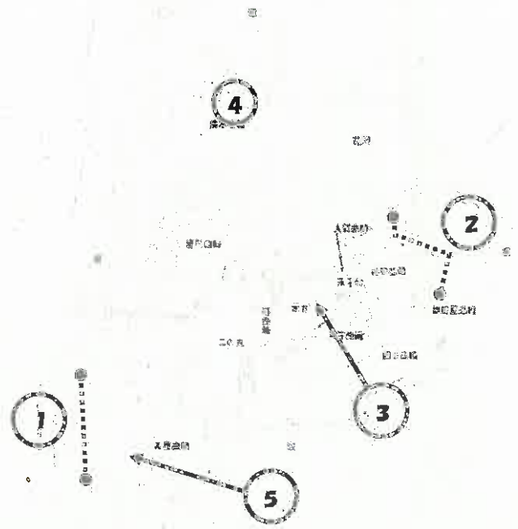


8 『主図合結記』
住友史料館



9 「古城郭図」
秋田県公文書館

江戸時代中期



『楽只堂年録』第173巻所収絵図（柳沢文庫）のトレース図

11 「（仮）甲府城絵図」個人蔵

◆ 絵図から読み取れること

1	県庁の西側	江戸時代中期は全体が石垣だが、初期は一部が土手になっている
2	稲荷櫓	江戸時代中期には稲荷櫓だけだが、初期は石垣沿いに多聞櫓がある
3	本丸	江戸時代中期には本丸御殿や毘沙門堂があるが、初期にはない
4	清水曲輪	江戸時代中期には馬場等になっているが、初期は建物が集中していた
5	県庁構内	江戸時代中期は御殿が描かれているが、初期は建物が少ない

◆ 絵図の比較からわかること

- 江戸時代初期は多聞櫓など戦闘に関する施設がある
- 江戸時代中期には本丸に迎賓館風の御殿がつくられる

→ 初期の絵図が多数発見されたことにより、絵図の比較検討から、甲府城の役割の変化がわかる

甲府城年表と絵図動向（甲斐国の支配）

近世甲斐国の支配体制の変遷一覧

時代区分	甲斐国主・藩主・甲府城代等		時代（開始年）	備　　考
織豊期	織田信長	甲斐：河尻秀隆	天正10年(1582)	穴山梅雪の本領（河内領）を除く。
	徳川家康	甲斐：平岩新吉	天正10年(1582)	穴山勝千代の本領（河内領）を除く。
	羽柴秀勝	—	天正18年(1590)	都留郡に三輪近家を配備。
	加藤光泰	—	天正19年(1591)	都留郡に加藤光吉を配備。石高21万石（推定）
	浅野長政	—	文禄2年（1593）	都留郡に浅野氏重（良重）を配備し、勝山城を築城（2万石）。石高21万石（長政5万石、幸長16万石）。後に太閤検地の結果により、22万5000石となる。なお長政は豊臣秀吉の奉行として上方に在駐していたため、幸長が甲斐国主として入国。
	浅野幸長	—		
江戸時代	徳川家康	城代：平岩新吉	慶長5年（1600）	都留郡に鳥居元忠を配備。
	藩主：徳川義直	城代：平岩新吉	慶長8年（1603）	25万石。都留郡に鳥居成次を配備。
	幕府直轄	城番：武川十二騎	慶長12年（1607）	第一次甲府城番制。都留郡は鳥居成次。
	藩主：徳川忠長	城番：武川十二騎	元和2年（1616）	元和4年説もあり。石高50万石（うち甲斐は18万石）。都留郡の鳥居成次が忠長家老となる（寛永9年に改易）。
	幕府直轄	城番：伊丹康勝	寛永9年（1632）	徳美藩主。都留郡には秋元泰朝が配備される（寛永10年、1万8000石で入封）。
		城番：幕府旗本	寛永13年（1636）	第二次甲府城番制。上級旗本2名か1年交代で城番を勤める。都留郡は秋元氏。
	藩主：徳川綱重	城代：渡辺綱治、戸田周防守ら	寛文1年（1661）	25万石（甲斐は14万5000石余）。都留郡は秋元氏（宝永1年武蔵国川越に転封）。
	藩主：徳川綱豊		延宝7年（1679）	
	藩生：柳沢吉保	—	宝永1年（1704）	22万8765石余（甲斐三郡15万1288石余、内高7万7477石余）
	藩主：柳沢吉里	—	宝永7年（1710）	
	幕府直轄	甲府勤番支配	享保9年（1724）	上級旗本2名を追手支配、山手支配にそれぞれ任命。役高3000石、役知1000石。江戸城芙蓉之間詰、席次は遠国奉行の上席。
		甲府城代	慶応2年（1866）	駿府城代と同格。役金2000両。

築城期　全国的に絵図がない

江戸初期　全国的に絵図希少

大改修

大改修

享保の

全国的にやや増加

甲府城の曲輪とその歴史

甲府城における内城・外郭の歴史的経緯と現状一覧

名称	歴史的経緯	現　　状
天守台	柳沢時代には、天守穴蔵門が入り口に設置され、天守台を取りまく土塀があった。	明治13年6月、明治天皇が天守台に上がり、県土を視察した記念碑「明治天皇御澄臨之碑」が立つ。
本　丸	本丸櫓、御殿、鉄門、銅門などが存在した。	謝恩碑が西隅にあり、本丸櫓の土台は謝恩碑建設に伴う石材搬入路確保のため破壊されている。なお、本丸櫓は階段のみが復元されている
天守曲輪	天守曲輪門と中ノ門が存在し、柳沢時代には武具土蔵があった。	敷地全体が現存する。
人質曲輪	柳沢時代には、人質曲輪門が存在し、天守台と本丸櫓の土台の石垣によって袋小路になっていた。	謝恩碑建設に伴う石材搬入路確保のため、本丸櫓の土台石垣が撤去され、本丸に続く通路のような形になっている。
二の丸 （山の井曲輪）	山ノ井門、内松陰門などが存在し、銅門に続いていた。	西側の一部は、道路の敷設で破壊され、月見櫓の土台も現存しない。敷地には、現在、武徳殿があるほか、内松陰門が復元されている。
二の丸 （台所曲輪）	台所門が存在し、坂下門に続いていた。	西側の一部は、県道となり破壊されている。議員会館があったが、平成19年に撤去された。
鍛冶曲輪	鍛冶曲輪門、稲荷門、坂下門、数奇屋門などが存在し、また米蔵・味噌蔵などもあった。	鍛冶曲輪門が復元されている。遊亀橋が架橋され、広場になっている。また、舞鶴城公園管理事務所がある。
帯曲輪	本丸を西から南にかけて取りまく帯曲輪で、銅門と鉄門に隣接する。建築物があった記録はない。	謝恩碑下あたり、武徳殿（二の丸）より一段高いところであるが、現在は立ち入り禁止となっている。
数奇屋曲輪	稲荷曲輪より一段低く、鍛冶曲輪より一段高い東側の曲輪で、数奇屋表門、数奇屋勝手門や数奇屋櫓などがあった。	数奇屋櫓の土台が残る。また、土塀が復元されている。
稲荷曲輪	本丸を東から北にかけて取りまく曲輪。庄城稲荷社があったことから、その名がついたといわれる。稲荷櫓、武具蔵、煙硝蔵などがあった。	煙硝蔵跡が残され、稲荷櫓、稲荷曲輪門が復元されている。稲荷櫓の南東隅の石垣が、謝恩碑の石材搬入路確保のため破壊され、通路となっている。
屋形曲輪	柳沢時代には、書院、番所、屋形門、外松陰門、梅林門、屋形曲輪門などが存在した。	敷地のほとんどが、舞鶴陸橋、百貨店、ホテル、中央線敷地となっており、稲荷曲輪入り口付近に一部残存するに過ぎない。
清水曲輪	清水櫓、書院、山手門、竹林門、番所などが存在した。	敷地のほとんどが、中央線や甲府駅の敷地となっている。山手門が復元され、その周辺がわずかに保存されている。
楽屋曲輪	柳門、書院、長屋、楽屋曲輪門、楽屋曲輪裏門、下ノ楽屋入口門、勤番所、大手門などが存在した。	敷地のほとんどが、県庁敷地となっている。
花畑曲輪	柳沢氏が宝永3年に新たに築造した曲輪。花畑曲輪北門、番所などがあり、曲輪内は畑として利用されていた。	敷地のほとんどが、市街地や中央線敷地となり、痕跡を留めていない。
内　郭	甲府勤番支配役宅、武家屋敷などが展開していた。	堀などもほとんどが埋め立てられ、市街地化している。
外　郭	町人地や寺社などが展開していた。	堀などもほとんどが埋め立てられ、市街地化している。